

われもこつ 第43号

2022年 4月 14日 発行

湯川ふるさと公園をご存知ですか。

湯川沿いで子供たちの遊具がたくさんあり、

ドッグランもある公園と言ったら

思い出して頂けるでしょう。

ではその一角に、

木道が約三〇〇メートルも続く

車椅子で山野草も観察できる

自然散策路があるのはご存知ですか。

この散策路が如何に素晴らしいか、

また昨年から有志で整備を始めたこと、

われもこつの会の皆さんにとっても

大変に魅力的な場所であることを

紹介したいと思います。



湯川自然散策路の整備について

大槻 幸一郎・・・ p.2

植物染料賦 — 蓼藍（タデアイ）—

たかの きみこ・・・ p.3

記録を付けてみませんか？ — その1 — こんな記録でいいの？

栗岩 竜雄・・・ p.4

会員の声・・・・・・・・・・・・・・・・ p.6

江川さんを偲んで・・・・・・・・ p.7

◆湯川自然散策路の森林整備について◆

大槻 幸一郎

北陸新幹線と並行して架かる浅間大橋の少し上流の河畔林が、数年前に伐採されて大問題にされたのを記憶にありませんか。この場所から上流に向かって直ぐ左手に湯川自然散策路があります。

今から約二〇年前に整備され、全長約三〇〇mのバリアフリーの木道が、河畔林の中を通っています。

軽井沢に定住して十五年余、朝早くには小鳥の聲が響き渡り、夕方には北アルプス方面からのオレンジ色の夕日が美しく森林に差し込んでいるこの散策路に惚れ込んでいます。春のカラマツの新緑やスミレやサクラソウに、秋には色鮮やかな紅葉のトンネルやハナヒョウタンボクの赤い実にも感動させられます。

しかし、そんな素晴らしい自然の様相も最近すっかり変わってきました。樹木の太い枯れ枝が遊歩道に落下したり、灌木類が大きく道に覆いかぶさったり、何が飛び出すかと不安な気持ちにもなります。そんな思いを共有した有志や町役場の担当者、地元区長さん等も交えて昨年八月二十四日に現地検討会が行われたのを皮切りに、散策路周辺の森の整備が始まりました。

手ノコ作業でのボランティア作業では、ウラジロモミ人工林の下木整理や散策路周辺のヤブ整理等を行いました。また樹木や草花に名前をつけましたが、全て手作りのもので軽井沢らしさをどう出すか等の工夫をしました。地蜂に刺されて軽井沢病院に駆けつけたものの、二時間も待たされるハプニングもありましたが十一月末で私達の作業は一区切りをつけ、十二月に入ってからには民間業者による機械力での間伐が開始され、年明けの一月一杯で作業は終了しました。

この自然散策路の特色は、

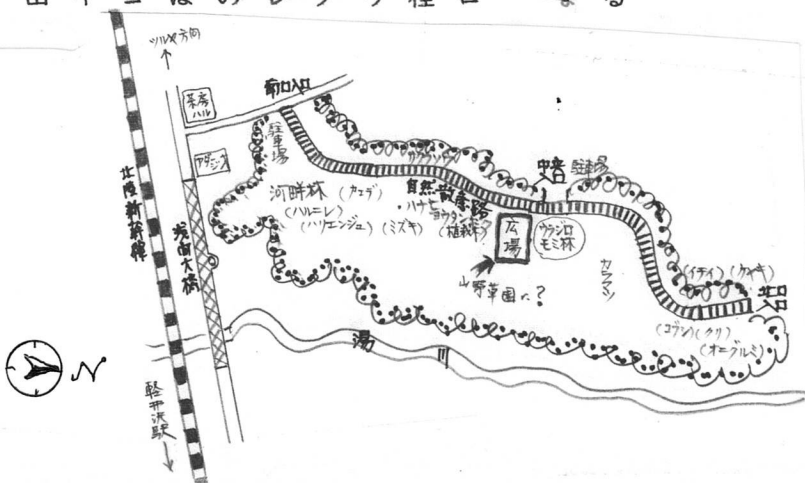
1. 三〇〇mもの距離が木道で、車椅子でも自然観察が出来る場所
2. 軽井沢町内では他にない。

3. 木道周辺の自然は、ウラジロモミやカラマツの六〇年生程の人工林と、天然林であるウラジロモミ、ミズキ、オニグルミ、クリ、クワ、ハルニレ等で構成される広葉樹中心の河畔林であること。下層にはスミレ、サクラソウ、カツクソウ、ヤブラン、シユウカイドウ、ユキザサ等の四季の山野草が見られること。

3. 佐藤前軽井沢植物園長の指導により、希少植物であるハナヒョウタンボクが木道沿いに他地域から移植保護されている。
4. 野鳥や小走りで走るリス等の動物が見られるスポットがある。
5. 樹名板、花名札、伐根の椅子など他では見られない手作りの設備の配置に心がけている。
6. 子供たちから大人、老人までの幅広い層の人々の利用プログラムが整備できる可能性を秘めている。

等が挙げられますが、木道脇に二〇m×一〇m程の樹木が少ない空地があります。ここを使つて、山野草の植栽をする等、われもこの会の皆さんの力添えで整備を進めていく方法もあるのではないかと思います。

期待と夢は大きく持っていますが、やはりボランティア組織の力はマンパワーです。一人でも多くの方の力添えが有ってこそ面白いフィールドの整備が出来ると思われれます。会員の皆さんを、是非現地にご案内し夢を語り合いたいと思います。



徳島特産の阿波藍で有名な藍染めの原料蓼藍はタデ科の植物で、飛鳥時代頃 (あるいはもっと古く) に中国から薬用・染料植物としてもたらされたものです。空き地などでよく見かけるアカマンマに似ていますが、実は日本の自生ではないのです。

それまで青色は露草など青色の花などを布に擦り付けていたので、色も薄くすぐに褪せたり色落ちしたりするものでした。ですから藍は大変貴重で、各地で栽培、品種改良され今では三〇種類もあるそうです (ほとんど絶滅しているものもあるようですが)。現在空き地などで蓼藍が生えているということを知ることがありますが、多分何らかの理由でこぼれた種子から発芽し増えたのでしょう。

蓼藍は藍成分 (インディゴ) を含んでいて、その成分で青い色を染めるのですが、その葉っぱはごく普通の植物と同じ緑色です。その葉をちぎって揉むと、あら不思議紺色に。インディゴが葉の中に閉じ込められているときは無色なのですが、空気にあたり酸化すると青くなるのです。しかし青くなってしまう色素はもはや染料とはなりません。酸化する前に被染物と結合させ、その状態で酸化すると青色に染まるのです。この性質を活かすために様々な工夫がなされています。

まず蓼藍に含まれているインディゴを凝縮そして保存が効くよう、発酵させて「染 (すくも)」にします。その染を水に入れて灰などのアルカリ成分にフスマなどを加えて発酵させ、還元液にします。還元した染液に被染物を入れて浸透させ、それを空気に晒して酸化させることで発色定着します。

と、簡単に書きましたが、藍草、染、藍建それぞれの出来が染め上がりの色や堅牢度を左右するので、高い専門技術を要します。藍の還元液を作ることを「藍を建てる」と言い、この染色法を建染めと言います。藍染めは他の植物染めとは違う特殊な染め方なのです。

殆ど唯一の青色染料と言ってよい藍ですが、その染色法の難しさなどから、江戸時代以前はそれほど広く染められていた訳ではないようです。藍は植物繊維との親和性がよく、一六世紀頃からの木綿の普及や奢侈禁止令と相まって、産業としての藍染めが進み、一挙に庶民のものとなりました。

藍で染めた色は濃藍 (こいあい) から瓶覗 (かめのぞき…ごく薄い藍色) まで色の濃さによって様々な名前がついています。落語に「裏は花色木綿」と連呼する与太郎の話がありますが、ここで言う「花色」の「花」とは露草のこと、藍で染めた露草色の木綿のことで布団の裏地などによく使われていました。

明治時代お雇い外人として来日したイギリス人ロバート・ウィリアム・アトキンソンは著書「藍の説」で「ジャパン・ブルー」という言葉を使っ

ているそうです。私はその著書を読んでいないのではっきりしたことは言えないのですが、羊毛の国から来た人が衣類、のれん、布団など様々なところに藍染めが使われていることに強い印象を受けたことは想像に難くありません。しかしその頃には藍染めの原料は蓼藍だけではなく、インド藍や合成藍も多かったと思われます。合成藍は一九世紀末ドイツで発明、実用化され、以降天然藍に取って変わりました。

ここまで蓼藍について書いてきましたが、インディゴを含む植物は蓼藍だけではありません。

先に揚げましたインド藍はナンバンコマツナギという豆科の植物で、蓼藍よりインディゴ含有量が多いので世界的に使われました。日本でも沖縄ではキツネノマゴ科の琉球藍、ヨーロッパでは古くはウオード (ホソバタイセイ) で青色を染めていました。その他にも含藍植物は十種以上あり世界中に自生、栽培されていることです。

「藍染め」―「日本」と連想される方も多いと思うのですが、実は世界中にあり、その土地々々の風土と人々の知恵でそれぞれの染め方をしているということも一言書き添えたいと思います。

蓼藍の花。染料には花が付く前の葉を使う。



私が記録にこだわるのは、やっぱり人間って信用が大事だから。上から目線になるつもりはありませんが、記録だって信用できない内容では相手にされません。こんな時モノを言うのが前述した「○○の仲間？」という表記。「知らないものは知らない」「分からないものは分からない」と、記録を付けた人の正直な人柄をも表わしてくれます。知ったかぶりは自戒を込めて得にはならないものです。

20年ぐらい前、「真っ白なアゲハチョウを見たのですが何ですか？」と問われたことがあります。そんなアゲハは実在しません。「白は白でも黄色っぽいとか、黒い斑が入っていませんか？」と聞き返すと「いえ白一色のアゲハチョウです。ひらひら優雅に舞っていました。」これにはお手上げ。「羽化直後のナミアゲハの夏型の♀ではないでしょうか…。」そう答えて10年ほど経ったある日、雑木林の梢付近を真っ白なアゲハが横切ったのです。尾状突起を揺らしながら飛ぶその姿は「オオミズアオだ！」これをガだと知らなければ正にアゲハチョウ。家の網戸にへばり付き、人が刺激して暴れている時とは大違い。私にもっと広い視野と経験があれば…、目撃者がもう少し詳しい情報をくれたら…、色々な学びや教訓を得た出来事でした。

花であれ虫であれ、撮影も採集も出来なかった生物を説明するのは難しいですね。スケッチやメモの併用は種名特定の決定的証拠になったりもします。白い蝶を見掛けた時、「キャベツ畑に無数にいた…」となればモンシロチョウの可能性大。似たような白い蝶でも、シチュエーションが違えば他の蝶を疑う余地あり。「川沿いの雑木林に沿う湿地で…」「半日陰となる林縁に白い花の群落あり…」等々、現地の植生に触れる記述は有用。「丈 50 センチ位、花は小さく粒々で、葉は細く、フチはギザギザ…」諸々総合した事後、この花はコンロンソウで蝶はスジグロチョウ？と推察できます。毎度都合よく自らのメモに救われるとは限りませんが、思いがけず書いた情報が、時間差で役立つことは確かにあります。後々分かってくることですが、蝶の生息には幼虫期の食草が関係し、これらが立体的・重層的に見えてきます。

それともう一例。明るい草原を好むヤマキチョウは、前方に林縁が迫り、薄暗い場所が近付くと向きを変えて広い原っぱに戻ります。近似のスジボソヤマキチョウは樹林内にも進入し、やぶの中でも飛んで行きます。見た目は酷似する両種ですがそれぞれ別種。共通の祖先から分化したと考えられます。だとすると理由は何でしょう？他の昆虫、他の動物、更に植物や、自然界の全てにひも付けると、これが生物多様性かと話は広がります。先程「図鑑をめくれば花も虫も似た者ばかり沢山…」と言ったのは多様性の証左。違いの数だけ理由があります。

いずれにしても今年から記録を付けようって人には全てが初記録なわけで、一年を通じて新発見が連続します。馴染みのフィールドを決めて、何種類の花が見られるか、何種類の昆虫と出会うか、数に挑むのもいいと思います。初年度は100種類ぐらいを目標にしてみませんか？専門的に考察するのはもっと後のお話です。

くりいわ たつお 写真家。2015 年発行の著書「軽井沢の蝶」(ほおずき書籍)では軽井沢町内に生息する(かつて確認された)129 種の蝶をありったけの愛をこめて紹介している。

観察日 (西暦で記入)	観察地
2012 年 6 月 20 日	軽井沢町石巻山
	天気
	気温

いつ? どこで?

軽井沢中部小学校「自然クラブ」で用いている記録票。いつ、どこで、何を…の3点が基本記録。

白一色 → 雑木林の上空

「自然」と一口に言っても内容は多岐に渡ります。既に興味の対象が明確で、特定の生物を調査している方も多いと思います。しかし関心はあるけど漠然としている、そんな人向けに、私なりの提案をさせていただきます。親子(特にお子さん中心)で取り組める、初歩的な活動の一つです。とりあえず対象は何でもいいので、日頃から目にする生物の、目撃記録を付けてみませんか？難しく考えず、親しむことが第一歩。目撃記録だから、見るだけでいいんです。動物なら哺乳類や野鳥。無脊椎では昆虫とか、もっとマイナーな分類群を意識してもいい。植物では山野草や樹木等々。何か惹かれた者たちに、ちょっとだけ熱い視線を向けてみましょう。筆記用具を持って、基本の3点をメモすればOK。こんなのでいいの？と思えるほど簡単な作業です。

まず1点目。目撃した生物種の名前。いきなり難関にぶつかったと思われるかも知れません。だって名前なんて知らないんだもん。図鑑をめくれば花も虫も似た者ばかり沢山でうんざり…。図鑑を何冊買っても掲載種が重複するだけ。でも大丈夫。初めから正確な同定など求める方が無理。絵の得意な人はスケッチで、文章の得意な人は言葉で、対象の外見をパパッとメモっておきましょう。ついでに現場周辺の環境も書けば尚、可。記憶に頼って頭の中だけで覚えようとするのはNG。カメラがあれば撮影しておくとか心強いですね。種名は分かる範囲で「〇〇の仲間？」と書けば充分。もちろん断定できればそれに越したことはありませんが、最初からそれが分かれば苦労はないですよ。状況が許すなら現物を採集し、専門家に鑑定してもらうのも良しとします。ちなみに生物種名はカタカナ表記が原則です。



2点目は目撃場所。自宅の庭先、いつもの散歩コース、お気に入りの公園、時に登山などの出先、最低限でも市町村名は記しましょう。どこで見たか覚えてないと、そもそも見たかどうかを疑われます。

3点目は目撃した年月日。基本4ケタの西暦から月日までを書き残すこと。どんなに貴重な昆虫や山野草を見掛けても、その日付が分からないと記録になりません。いつ、どこで、何を、この3点は鉄則中の鉄則で、一つ欠けても価値は低減します。特に種名調べの重要なヒントとして、何気ないスケッチや一言のメモが、後々かなり高確率で必要になります。※小学校のクラブ活動で使っている記録票を参照してください。

初めは戸惑う日々が続くこともあるでしょう。「そんなのスマホで撮って、アプリで検索すりゃいいじゃん！」確かに今の時代、それは一理ありますが、昔ながらのやり方にもメリットはあります。種名調べでは、図鑑でどんなに探しても分からない難解種ってありますよね。しかし何度もページをめくっているうち、気付けば疑問に先回りして、対象種以外の情報も頭に入っていたりしませんか？これぞネット検索との大いなる差。何一つ丸暗記しなくて済むご時世ですが、このアナログな手法を1年ぐらい試してほしいものです。

観察者		年 組 名前	
種名 (カタカナ表記) アゲハチョウの仲間?			
科名	科	♂	♀ 不明
メモ 山地の樹林帯。 梢の上空。青空を背景に… 白-色のアゲハチョウなのか? 特ちょう的な長いはねの尾も ゆらしながら、ひらひら飛んでた。			
その他備考 注、これは記入例です			

ナチュラルガーデンは無理？

我が家は別荘地の中にあるのですが、周りは木が多い急な坂道で、現実には山の中にあると言っても過言ではない様な所です。今年のような雪の多い年は、道が凍って外出もままならない日が続きます。

一五年位前に移住した時は、庭に大好きなヤマユリが咲いたりして、感動しました。お向かいのお宅の庭にはヤマユリが群生していて、信じられない思いでした。数年してどれだけ増えたかしらと、期待を胸に見に行ったら、数が少なくなっているのです。道端に咲いていたヤマユリも無くなっていました。我が家のユリも掘られていました。

ユリの根はスーパードでも売られています、普通はオニユリの種類らしく、ヤマユリはそれより数段美味しいそうです。イノシシもよくご存知らしく、生えている場所を発見してからは、繰り返し戻ってきます。

一昨年はそれでも庭に二、三本残ったのです。蕾がついて咲くのを楽しみにしていたある日、なんと！蕾が全部無くなっていました。今度は鹿の食害に会った様です。側にあったジイソブ（ツルニンジン）の蕾も無くなっていました。ア……。

以来ユリとツルニンジンの蕾には不織布でカバーするのですが、見た目は×××。それでも種を取るまでは、保護しています。ただ、全部の花を

カバーする訳ではないので、他の花は食べられてしまっています。

そこで最近では、それなら庭には毒の花を植えてみようかと考えるようになりました。毒の花はハシリドコロやトリカブトが知られていますが、他にも結構有るのです。シャクナゲ、スズラン、スイセン、フクジュソウ、タケニグサ、等等。

ただ考えて見れば、彼らの縄張りに侵入したのは私達なので、あまり文句も言えませんが、いつの日か庭らしくできる日が来るのでしょうか？

大倉

花談義



今年もコロナで大変な日々が続いておりますが皆様ご健勝のこととお察し申し上げます。春はすぐ近くまで迫っておりますが、軽井沢ならでの凍土も春光に春の息吹を感じますし、期待に心弾ませながら花の芽を探し一喜一憂していませんか？今年も皆さんと花の出会いを楽しみにしております。朝早く目が覚めた時NHKラジオから深夜放送が終る少し前に今日の誕生花を放送しています。二月四日の朝何と！自宅の庭に有るフキタンポポでした。花の意味は公平な裁きで咳止めの薬になるという解説でした。

また花の名前にも、羅生門蔓（ラショウモンカズラ）、伶人草（レイジンソウ）等何時の時代に付けられたか定かたではないが古（いにしえ）を感じ

じます。私の家の庭は猫の額程ですが、それでも毎年少しずつ殖えております。

山野草は別の視点から思うに人の心を癒す力があると思いませんか？高山に咲く花、野辺に咲く花まで自分の手で愛でたいと思う欲望が人気の高さになって居ると思います。

可憐な花々が愛しく思う反面、自分自身が癒されています。皆様はいかがでしょう。今年も皆様と花談義に花を咲かせましょう。 M. H.

「軽井沢自然クラブ」報告

毎年中部小学校のクラブ活動にわれもこの会のメンバーも参加しています。

「軽井沢自然クラブ」と名付けたのはクラブ発足の子どもたちでした。

以前は年間十回以上クラブの日がありました。が、今は九〇分の長い時間で五回ほど。そのうち三回はバスハイクを計画します。

昨年一回目は湯川ふるさと公園、二回目は風越自然園を歩きました。外に出て草花や昆虫に出会い、ひとつかふたつ名前を覚える。そんなクラブ活動です。

三回目は離山バスハイクの予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。また、クラブ活動の間じゅう大人も子どもも皆マスクをしていて顔を覚えることもできなかったことが心残りでした。今年も教室から外へ出て子供たちと自然に触れ合うのが楽しみです。 クラブ員一同

□■平成二十八年四月「床の上スキークラブ」の集まりがプリンス通りの喫茶店「カフェ・ル・プティ・ニ」で開かれました。スキーの上達にはシーズンオフにこそ技術を磨くべきとの思いに賛同したスキー大好き人間ばかり。江川さんご夫妻もこのクラブの創設時からのメンバーでした。

本格登山はもとよりバックカントリースキーをこよなく愛され、そのご経験や日本の降雪事情の統計を基にこの国の雪質は欧州の名だたるスキーリゾートにも勝り世界一である、またスキーは危険なスポーツと言われているが、実は高齢者にも安全なスポーツであると、事実とデータに基づき教えて頂きました。

それでも登山やバックカントリーは自然が相手ですから危険とは背中合わせです。そんな江川さんのご趣味を支えつつも洋子夫人は江川さんが出かけられる度に登山口まで車でお送りし、お帰りになるまで心配が絶えないとおっしゃっておられました。残念なことに昨年九月、江川さんは北穂高で滑落し、帰らぬ人となりました。江川邸に咲いていたクリスマスローズ数十株が「ル・プティ・ニ」の前庭に移植されております。この三月の春めいた日に江川家のクリスマスローズが咲き始めました。

床の上スキークラブ一同

□■江川さんとの出会いは、私が軽井沢に転居した平成一八年夏でした。その五年前に出版した「千曲川ひとり歩き旅」（オフィス・エム）のスライドを、町内の自然好きな方々に集まって頂き説明する機会を設けさせてもらったのがお付き合いの始まりで、大変に御迷惑をおかけし、お世話になりました。以降、本会でのお付き合いが続きましたが、江川さんが北大卒の博士としての学識の豊かさ、国土を測る国土地理院のOBであるという事と、私が北海道勤務のある林野庁OBであると言うことに加え、私の第二の職場が航空測量会社であった事が重なり、幾度となくご相談を持ちかけたり持ちかけられたりの付き合いがありました。

平成一九年の台風一九号後のカラマツ風倒木の調査、風土フォーラムでの発表、軽井沢周辺の赤色立体図を使つての地形解析、野反湖周辺のシラネアオイ群生地視察、碓氷峠近くの滝見学登山、北海道の根曲がり竹や林道の状況等、思い出すだけでも随分とお話させてもらった様に思います。最後のメールでのやり取りは、昨年六月に北海道の風倒木処理を題材にした小説で、木野工著「樹と雪と甲虫と」を私に勧めてくれた事でした。

自転車ですつそうと走り回る姿や、話しかける時のジックリと間をとって言葉を選ぶ姿は、

几帳面で生真面目な江川さんそのもので忘れられませんか。

われもこの会のホームページの企画「お庭拝見」でご自宅にお邪魔した際に頂いたクリスマスローズやクリンソウは我が庭で元気に育っています。

大好きだった北アルプスの自然の中で眠っている江川さんのご冥福をお祈りいたします。

大槻 幸一郎

□■われもこの会を支える柱の一本を失いました。

会報「われもこう」の編集長として長い間頼りにしていました。

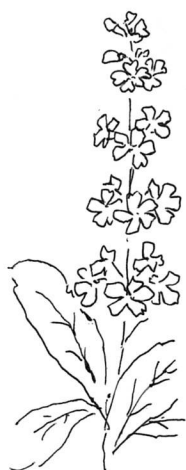
毎年自然観察ハイキングを計画し会員を連れ行ってくれるのも江川さんでした。

原っぱの活動日には大きくなり過ぎたススキや根の張ったクローバーをもくもくとシャベルで掘り起こしていました。

作業後のお茶タイムでは日に焼けた少年のような笑顔を浮かべていました。

江川さんの穏やかな語り口とその声を忘れません。

猪又 裕子



2022年の作業日

天気の良い日は **原っぱが呼んでいる** ♡

5月 8日(日)

18日(水)

29日(日)

6月 8日(水)

19日(日)

29日(水)

7月 10日(日)

20日(水)

31日(日)

8月 [7日(日)]※

24日(水)

9月 11日(日)

28日(水)

10月 16日(日)

26日(水)

11月 6日(日)

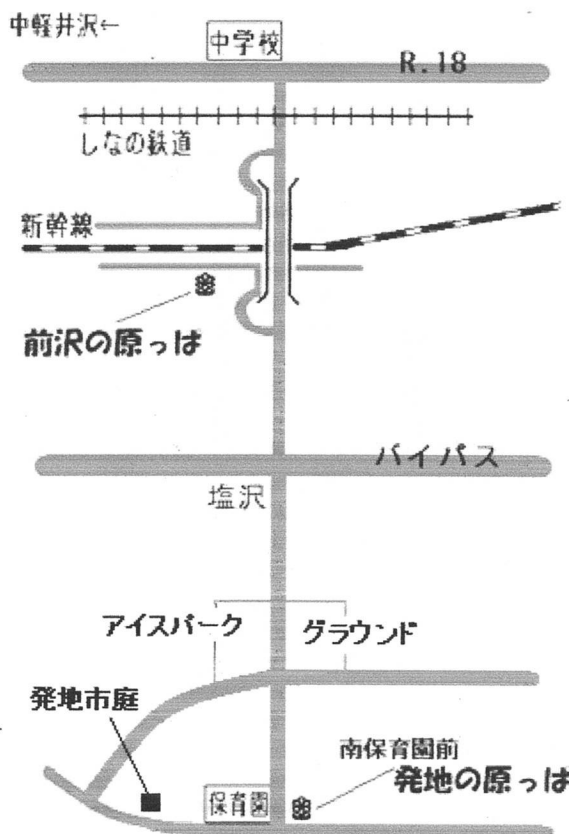
▶日曜日は **発地の原っぱ**

▶水曜日は **前沢の原っぱ**

※ [8/7(日)]は予備日、場所は未定です]

午後1時30分 集合

コロナの感染状況により中止・変更することもあります



▶雨天中止

小雨の場合決行することもあります

▶持ち物：園芸用手袋

スコップや草刈り鎌

日除けの帽子、長靴

水筒（熱中症予防に）

・・・会員募集中・・・

作業日にお試し参加してください。

年会費は1000円、ご家族で入会する場合、2人目から500円です。

第10回ちいき活動みほん市のおしらせ

期日(予定): 令和4年6月12日(日)午後1時30分～3時30分

会場(予定): 軽井沢町中央公民館 大講堂他

主催: 第10回ちいき活動みほん市実行委員会

共催: 軽井沢町社会福祉協議会

◎社会情勢によっては、内容の変更や中止する場合があります。詳しくは軽井沢町ボランティアセンター(木もれ陽の里内)まで。

われもこの会も出店します。山野草で庭づくりしたい方、お立ち寄りください。苗や種をご用意してます!



できたら
いいね!



>>> 編集後記 <<<

p.3の「植物染料賦」は、昨年発行の42号から始まり、今回第8弾になります。第2弾～7弾はわれもこの会のホームページ「会員の声」に載っていますのでぜひ覗いてみてください。

—われもこう43号は再生紙を使用しています—

発行/野の花を増やす会 われもこの会 <http://waremokou.whitesnow.jp/waremokou3/>